



令和5年度

## 第4回沖縄県中学校英語教育研究大会



会場:那霸市立寄宮中学校

令和 5年 12月 1日(金)



## 資料

- |                                 |         |
|---------------------------------|---------|
| 1 アンケートフォーム                     | (p. 1)  |
| 2 実施要項                          | (p. 2)  |
| 3 公開授業指導案                       | (p. 3)  |
| 4 講演会資料                         | (p. 9)  |
| 5 第71回九州地区英語教育研究大会(大分大会)分科会発表要旨 | (p. 19) |
| 6 沖縄県中学校英語教育研究会事業計画             | (p. 21) |

令和5年度第4回沖縄県中学校英語教育研究大会に関するアンケートへのご協力をよろしくお願いします。

1 公開授業に関するご質問・ご感想をご記入下さい。

ご質問への回答は、授業研究会の中で取り上げさせていただきます。



2 全体会【講演会】についてご感想をご記入下さい。



ご協力ありがとうございました。来年度は、中頭地区開催となります。

# 令和5年度 第4回沖縄県中学校英語教育研究大会実施要項

## 1 目的

- (1) 本県英語教育の発展を目指した情報交換の場とする。
- (2) 英語教員の資質向上に資する研修の場とする。

## 2 授業研究会の内容

- (1) 名 称：令和5年度 第4回沖縄県中学校英語教育研究大会
- (2) 主 催：沖縄県中学校学校英語教育研究会
- (3) 日 時：令和5年12月1日（金） 14:10～16:45（受付13:30）
- (4) 場 所：那覇市立寄宮中学校（5校時）
- (5) 内 容：
  - I 授業研究：兼島 こずえ 教諭（那覇市立寄宮中学校 教諭）
  - II 研究発表：前大 えり 教諭（豊見城市立伊良波中学校 教諭）  
→紙面・オンデマンド
  - III 講 話：卯城 祐司 氏（国立大学法人筑波大学 教授）
- (6) 日 程：
  - 13:30～14:00 (25分) 受付
  - 14:10～15:00 (50分) 公開授業
  - 15:00～15:15 (15分) 休憩
  - 15:15～15:25 (10分) 授業研究
  - 15:25～16:40 (65分) 講演
  - 16:40～16:45 (5分) 閉会

## 3 参加者 【会 場 校】那覇地区中学校 教諭

那覇地区中英研役員

各地区中英研役員

沖中英研役員

## 【オンライン】沖縄県中学校英語科教諭

ZoomミーティングID: 6454716454

パスコード: mUqK5h

## 4 申し込み 申し込み期限 11月24日（金）

会場校へ参加の先生方のみ、右のQRコード又は下記URLより、

申し込みフォームへアクセスしていただきお申し込み下さい。

オンライン参加の場合は、申し込み不要です。

<https://forms.office.com/r/UKmWDHUqP2>



※ 会場に十分な駐車スペースはございませんので、公共交通機関をご利用ください。

# 第1学年 外国語科学習指導案

令和5年 12月 1日（金）5校時  
那覇市立寄宮中学校 1年4組 37名  
指導者 兼島 こずえ

## 1 単元名 Lesson 6 Lunch in Chinatown ONE WORLD ENGLISH Course 1

### 2 単元の目標

- (1) 疑問詞を使った疑問文を理解して、使うことができる。 (知識及び技能)
- (2) AETに旅行プランを提案するために、海外の友達に現地のおすすめとその理由をたずねることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) AETに旅行プランを提案するために、海外の友達に現地のおすすめをたずねようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領（平成29年告示）の「（3）話すこと【やり取り】」の内容を扱い、「イ. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようとする」ことを目的とする。

言語材料は中学校学習指導要領の内容「知識及び技能」「（1）英語の特徴やきまりに関する事項」「（2）文、文構造及び文法事項」の「（ア）文」のうち、「b 疑問文のうち、助動詞（may, willなど）ではじまるものや or を含むもの、疑問詞（which, whose）で始まるもの」を取り扱う。疑問詞（who, what, when, where, why, how）で始まるものは小学校外国語活動において慣れ親しんでいることから、聞いたり話したりする言語活動を多く取り入れ、自己表現の幅をさらに発展させていきたい。

本単元の題材は、登場人物が中華街に行き、おすすめのお店とその理由について話したり、食事を注文したりする場面であり、生徒にとってイメージしやすい内容となっている。そのため、旅行先で現地の人におすすめを聞くというより身近な場面に繋げ、言語活動を行っていきたい。

#### (2) 児童（生徒）観

本学級の生徒は、多様な意見を受容的に受け止める雰囲気があり、ペアやグループでの話し合いを積極的に行うことができる。授業での発言も活発で、活気のある学級である。一方で、読むことや書くことについては難しく感じている生徒も多いため、話すことや聞くことの指導を十分に行った上で、読むことや書くことに繋げていく必要がある。

Lesson 4ではポーランドに住む教師の友人からビデオレターをもらい、生徒が手紙で返事を書く活動を行い、Lesson 5の単元末にはWorld Classroomの国際交流事業を活用し、海外の子ども達とオンライン異文化交流を行った。生徒たちは学校生活や学校行事について紹介したり、お互いのことについて質問したり、答えたりすることで、海外との交流を通して、違う国に住む同じ世代の人たちと繋がるや、英語で話ができるという喜びを感じると共に、伝えられなかつ悔しさを感じて英語を話すことへの意欲が高まっている様子である。会話を継続し、相手に質問したり、質問に答えたりすることで相手の国のことを見たり、お互いのことを知ることができます。単元を通して指導していきたい。

#### (3) 指導観

本単元では、実際に海外の生徒とオンライン交流をして、その国のおすすめの食べ物やお店、場所などについて相手の考えをたずねたり、その理由をたずねたりする力を育てたい。相手の国についてたずねることで、異文化交流に繋げるとともに、相手の考え方やそう考える理由を知ることで、相手のこともっとよく知ることができることに気付けるよう、指導していきたい。生徒はこれまでの単元で、相手に事実や自分の考え、気持ちを伝えたり、会話を継続するためにリアクションや質問、事実+1文を加えたりする課題に取り組んできた。本単元を通して、それらの学びを生かしながら、会話を楽しむ姿勢を育みたい。

## 4 単元の評価規準 ※主に見取る領域が2領域ある場合は、各領域について記載する

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと	<p>【知識】疑問詞 (which, why, who, whose) の文の特徴やきまりを理解している。</p> <p>【技能】疑問詞 (which, who, why whose) の文の特徴やきまりを基に、相手におすすめのものや場所とその理由をたずねる技能を身につけていく。</p>	AETに旅行プランを提案するために、海外の友達に現地のおすすめとその理由をたずねることができる。	AETに旅行プランを提案するために、海外の友達に現地のおすすめとその理由をたずねようとしている。

## 5 単元の指導と評価の計画（全○時間）

時	◆目標（ねらい） ○主な活動等	評価			
		知・技	思判表	態度	評価規準・方法等
1	<p>◆旅行プランを立てるために、海外の友だちにどんなことを聞くか考えることができる。</p> <p>◆沖縄観光はどの季節がおすすめか、自分の考えを伝えることができる。</p> <p>○旅行プランを立てる時に、現地の人にはどんなことを聞きたいか考える。（企画書作成）</p> <p>○ペアトーク（沖縄観光におすすめの季節やその理由）</p>				
2	<p>◆旅先でより美味しいご飯を食べるため、どの食べ物やお店がおすすめか、理由とともにたずねよう。</p> <p>○ペアトーク</p> <p>○中華街での会話を理解する（Part 1）</p>				
3	<p>◆「だれが」と質問したり、だれのものか持ち主を探したりできる。</p> <p>○この人だ～れ？クイズ</p> <p>○持ち主探しゲーム</p>				
4	<p>◆より楽しい観光プランを立てるために、自分の興味にあったおすすめの場所をたずねることができる。</p> <p>○ペアトーク（自分の興味にあったおすすめの場所）</p> <p>○中華街での会話を理解する（Part 2）</p>				
5	<p>◆こずえ先生の出身地についてもっと知るために、おすすめの食べ物や場所などをたずねることができる。</p> <p>○ペア・グループトーク</p>				
6	<p>◆代名詞に注意して読むことができる。</p> <p>○代名詞クイズ</p> <p>○リーディング活動</p>				
7	<p>◆「どちらを」「なぜ」「だれが」「だれの～」とたずねた文を理解することができる。</p> <p>○文法まとめ</p> <p>○中華街での会話を理解する（part 1～3）</p>				
8	<p>◆相手の興味や目的にあった沖縄旅プランを提案するために、おすすめの食べ物や場所を伝え合う。</p> <p>○ペアトーク（自分の興味や目的にあった沖縄のおすすめや、その理由）</p>				
9	<p>◆旅プランを作るために、オンライン交流会で相手に聞きたいことを整理しよう。</p> <p>○マッピング</p>				
10	<p>◆AETにおすすめの旅プランを提案するために、現地のおすすめのものやその理由をたずねよう。</p> <p>○オンライン国際交流会</p>				
11	<p>◆オンライン交流会の情報をもとに、AETに海外旅行プランを提案する。</p> <p>○海外旅行プランを書いたポスター作成</p>				
12	<p>◆より楽しい観光プランを立てるために、相手におすすめのものや場所をたずねよう！</p> <p>○パフォーマンステスト</p>	◎	◎		パフォーマンステスト
13	<p>◆Lesson 6 の到達状況を振り返る。</p> <p>○単元テスト</p>	◎	◎		ペーパーテスト

◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価（形成的評価）

## 6 単元末または学期末におけるパフォーマンステストとそのループリック

## (1) パフォーマンステストの内容

**パターン A** あなたは友人と2人でアメリカへ旅行に行きます。より楽しいプランを作るために、アメリカ出身のアラン先生におすすめするものとその理由をたずねることにしました。アラン先生もあなたに聞きたいことがあるようです。カードの情報をもとにアラン先生に質問したり、質問に答えたりしながら、会話を継続させよう！

**パターン B** あなたは友人と2人でアメリカへ旅行に行きます。あなたはより楽しいプランを作るために、マルタ共和国に住んでいたこずえ先生におすすめするものとその理由をたずねることにしました。こずえ先生もあなたに聞きたいことがあるようです。カードの情報をもとにこずえ先生に質問したり、質問に答えたりしながら、会話を継続させよう！

※T1とT2 (A E T) の二手に分かれて同時にパフォーマンステストを行う。生徒はパターンAもしくはパターンBのどちらかでテストを受ける。どちらになるかは直前に教師が指定する。

## (2) ループリック

「思考・判断・表現」について、単元を通して指導したことを踏まえて、以下の基準で評価する。

	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
a	相手がおすすめするものとその理由についてたずねたり答えたりしながら、話題を深める質問をしてやりとりを継続している。	相手がおすすめするものとその理由についてたずねたり答えたりしながら、話題を深める質問をしてやりとりを継続しようとしている。
b	相手がおすすめするものとその理由についてたずね、やりとりを継続している。	相手がおすすめするものとその理由についてたずね、やりとりを継続しようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

## (3) Aの会話例

S: Which place do you recommend for sightseeing?

T: I recommend Grand Canyon.

S: Wow, that's nice. Why do you recommend that place?

T: It's because you can see a beautiful view.

By the way, I want to travel around Japan.

Which place do you recommend for sightseeing in Japan?

S: I recommend Kyoto.

T: Why do you recommend Kyoto?

S: Because you can see many old temples.

Do you know kiyomizu-dera?

T: Yes, I do. I want to see it.

おすすめするものとその理由をたずねている。

相手の質問に答えている。

話題を深める質問をしている。

## 8 本時の学習 【8／13時間】

## (1) 目標

より楽しい週末お出かけプランを作るために、相手におすすめのものや場所を詳しく聞いてみよう！

## (2) 本時の授業の工夫

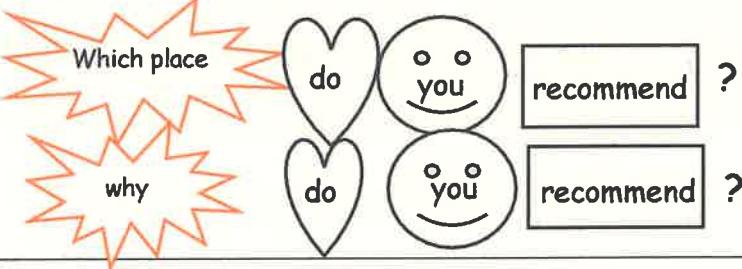
言語活動に繰り返し取り組ませながら、中間指導を加えることで、表現の幅を広げたり、内容を深めたりさせる。（会話を継続・発展させる方法）

## (3) 展開例

	学習活動	○指導上の留意点 ★予想される児童生徒の反応	評価項目(方法)
導入10分	1 Greetings  2 ペラペラシート シートを活用しながらペアでやりとりする。  3 帯活動 (pair talk)	○短い時間で英語を話す雰囲気を作り出す。  ○個人のレベルに応じて活用させる。できるだけ英文を見ないで挑戦するように伝える。 ★前回よりも発話できるようにしたい。  ○間違いを恐れずに話す雰囲気を作る。 ★相手の考えをたずねたり、自分の考えを伝えたりしたい。	
展開30分	3 単元ゴール、めあて確認  4 言語活動 ① Teacher Talk  ② 言語活動（1回目）  中間指導  ③ 言語活動（2回目）  中間指導  ④ 言語活動（3回目）	<p><b>単元ゴール:</b> AET に旅行プランを提案するために、海外の友達に現地のおすすめとその理由をたずねることができる。</p> <p><b>Today's Goal:</b> より楽しい週末お出かけプランを作るために、相手のおすすめのものや場所を詳しく聞いてみよう！</p> <p>★沖縄観光と聞いて思いつくものや場所を提案する。 ○アイデアを出させながら、教師にあった場所を考えさせる。 ★教師の好きなことや興味のあることをもとにおすすめの場所を考える。 I recommend ~. Because ~.  ○お出かけプランにおすすめするものや場所を伝え合う。まずは話をさせてみる。 ★どのようにたずねたら良いのか分からない。  ○言えなかった表現を共有する。机間指導の中で良かった点や気になった点を全体で共有する。 ○「より楽しいプランを作る」ためにはどうしたら良いか考えさせる。  ○ペアを変えて、おすすめの場所をたずねたり、答えたりする。 ★1回目を生かして相手の考えを聞きたい。相手の好きなことや興味のあることを聞いて、おすすめしたい。  ○言えなかった表現を共有する。机間指導の中で良かった点や気になった点を全体で共有する。 ○話題を深める質問や会話を継続させる方法を考えさせる。</p> <p>○ペアを変えて、おすすめの場所をたずねたり、答えたりする。 ★1・2回目を生かしておすすめのものや場所とその理由をたずねたい。楽しく会話を継続させたい。</p>	<p>※指導に生かす評価 【思考・判断・表現】 (概ね満足) より楽しい週末お出かけプランを作るために、相手のおすすめのものや場所を詳しく聞いたり、答えたりしている。</p> <p>【主体的態度】(概ね満足) より楽しい週末お出かけプランを作るために、相手のおすすめのものや場所を詳しく聞いたり、答えたりしようとしている。</p> <p>【努力を要する状況と判断される児童(生徒)への支援】</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>ペラペラシート等をヒントにして取り組ませる。</li> <li>ペアで協力して取り組むように声かけをする。</li> </ul>	
終 末 10 分	<b>5まとめ</b> ①ペアで1分間今日のまとめをする。 ②全体で共有する。	<p>★今日学んだことを伝えたい。まだ分からぬ所をペアに聞いてみたい。</p> <p>○より楽しいプランを作るためにはどうすればよいか、詳しく聞くにはどうすればよいかを引き出す。</p> <p><b>まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より楽しいプランを作るためには、好きなことや興味のあることをもとに考えるとよい。</li> <li>詳しく聞くには、理由をたずねたり、深める質問をしたりすると良い。</li> </ul>	
	<b>6振り返り</b>	<p>○活動を振り返って学んだことや気づいたこと、できるようになったことや、できなかつしたことなどを振り返らせる。</p>	

## (4) 板書計画

単元ゴール: ABT に観光プランを提案するために、海外の友だちに現地のおすすめのものや場所とその理由をたずねよう！	<b>Goal :</b> より楽しい週末お出かけプランを作るために、相手におすすめのものや場所を詳しく聞いてみよう！	CanDoCheck 話すこと (やり取り)
<u>Day</u>  <u>Date</u>  <u>Weather</u>	<b>言いたかったけど言えなかつた表現</b>	<b>まとめ</b> より楽しいプランを作るためには、好きなことや興味のあることをもとに考えるとよい。  <b>詳しく聞くには、理由をたずねたり、深める質問をしたりするとい。</b>
		



## 「目的や場面、状況に応じて理解・表現する英語の育て方」

筑波大学 人文社会系 教授  
卯城 祐司 (USHIRO Yuji)



Copyright © USHIRO Yuji

<資料の活用方法について（著作権に関する留意点）>

本資料について、次の条件において活用できます。①営利を目的とせず、本講演の内容・主旨を伝達するための活用。②活用の際は出典を明示。③資料全体をそのままの形態で活用。④活用場所については、地方公共団体、学校が主催する研修、伝達講習。⑤資料活用者については、本講演に参加した者、教員及び行政担当者。

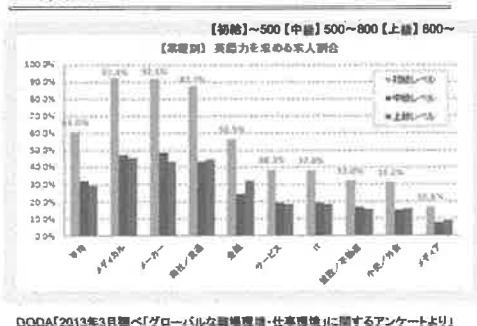
<当講演の録音・撮影について> 録音・撮影できません。



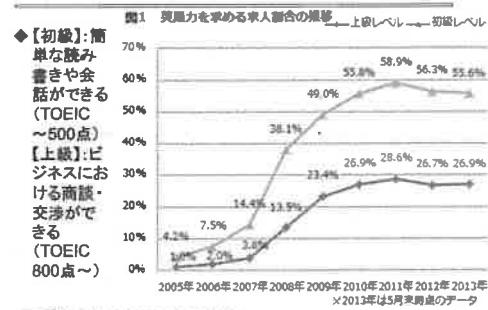
### 本日の内容

- ◆英語学習をとりまく背景
- ◆目的や場面、状況に応じた理解・表現
- ◆インプット・アウトプット
- ◆語彙の指導
- ◆目的や場面、状況に応じたリーディングは何故、難しいのか
- ◆リテリング（再話）による、目的や場面、状況に応じた理解・表現

### 2. 業種別・英語力を求める求人割合



### 3. 英語を学ぶ理由：英語力を求める求人割合



#### 4. Test and Score Data Summary for TOEFL iBT 2022

Austria 101, Germany 100, Slovenia 100, Switzerland 100, Netherlands 99, Belgium 98, Denmark 98, Finland 98, Ireland 98, Australia 97, Canada 97, Iceland 97, Luxembourg 97, Sweden 97, United Kingdom 97
Czech Republic 95, Estonia 95, Greece 95, Hungary 95, New Zealand 95, Slovakia 95, Lithuania 94, Norway 94, Portugal 94, Italy 93, Latvia 93, Poland 93, United States 93, Israel 92, Costa Rica 92, Spain 91
France 88, Mexico 87, D.P.R. Korea 86, Turkey 86, Chile 85, Colombia 85

(OECD 38 member countries)

#### 5. Comparison with China & D.P.R. Korea

##### ◆ Test and Score Data Summary 2022 for TOEFL iBT

<January – December 2022>	Japan	China	D.P.R. Korea
Reading			
Listening			
Speaking			
Writing			
Total			

#### 6. テストが測る力、計り知れない児童・生徒の力

- ◆帰国子女の英語。
- ◆英会話スクールに通っている子どもたち。
- ◆英語と共に育つ児童・生徒の姿を思い浮かべる。
- ◆子どもたちの英語を可視化してあげる。

#### 7. 場面で導入、活動で理解

- ◆言語項目の導入では、その表現を用いる典型的なコミュニケーション場面で導入したい。
- ◆そのことによって、どんな「場面」で使われる表現なのか、そして、どんな「話し手」と「聞き手」の関係で使われるのか、
- ◆また、「謝罪」「説得」など、どんなことを伝えるために使われるのかなどが伴った言語項目の理解となる。
- ◆実際の「言語使用の経験」に近いコミュニケーション活動で理解を深める。

10

#### 8. 場面で導入、活動で理解

- ◆新出の表現を学ぶと、理解できたかどうかをすぐに機械的な演習問題で確かめることも多い。
- ◆でも、be going to を学べば、それを空所に入れることくらい、考えなくともできる。むしろ、生徒が考えなくなる。
- ◆「どんよりとして、今にも雨が降りそうな空を見つめている場合」と、「ただ単に天気予報で明日の予報を知った場合」など、場面に応じてbe going to や willなどの表現が口について出るよう、どんな状況で何を伝えるのかという「思い」を第一に、英語が使える児童・生徒を育てたい。

11

#### 9. クラッシュンのモデル (Krashen 1982)

12

#### 10. 英語習得するプロセス

- ◆膨大な量の英語に耳や目でふれる。 → input
- ◆その英語の情報に注意を向ける。 → noticing
- ◆意味を「理解」する。 → comprehension
- ◆これまで学んできた知識と照らし合わせて試してみる。 → intake
- ◆使えるように自分のものとする。 → integration
- ◆実際に話したり、書いたりして使ってみる。 → output

#### 11. input, output, intake

- ◆英語にたくさんふれるインプットは重要。
- ◆ただ、インプットだけでは不十分。児童・生徒が実際に英語を使ってみるアウトプットも重要な役割を果たしている (Swain, M. (1985)他)。
- ◆①自分が伝えたいことと、実際に伝えられないことのギャップに気づく。
- ◆②学習過程で立てた仮説を検証、修正する。
- ◆③より細かな文法規則に意識が向けられる。
- ◆④学んだ知識が自動化される。
- ◆input, output そして intakeへ。

14

#### 12. 「気づき」が果たす役割

- ◆大勢の人が集まっている街中やパーティー。
- ◆さまざまな話し声がただの雑音にしか過ぎない。
- ◆まわりの誰かが自分の名前や好きなアイドル、趣味の話をした途端。
- ◆不思議と耳に入ってくる。
- ◆cocktail-party effect。
- ◆「選択的注意」

#### 13. 教室の中での「気づき」が果たす役割

- ◆以前は、文法規則ばかり教える文法訳読式の授業。
- ◆一時、「形式ではなく意味こそが大事」というコミュニケーション中心の授業の流れの中で、形式があまり重視されないことも。
- ◆今は「意味中心のやりとりが行われている中で、形式に注意が向くことも大事」と考えられるように。
- ◆ALTの先生がたくさん英語を話してくれれば安心？
- ◆児童・生徒がその形式に気づいていないと、さほど内在化されない。

#### 14. 授業の中での関り

- ◆授業の中で私たち教員が関わることができる。
- ◆1つは、どのようなインプットを与えるか。
- ◆もう1つは、児童・生徒のアウトプットへのフィードバック。
- ◆教室の中で「気づき」を促すために、もっとも注意が割かれているのが「インプット強化」。
- ◆やりとりする中で、ターゲットの言語形式だけ、ゆっくり強く発音してみる。
- ◆板書する際、ターゲットの表現だけ色を変えて目立たせる。

#### 15. 文構造や音声への気づきを促すインプット

- ◆①あくまで「意味中心のやりとりが行われている中で」文構造や音声を示すこと。
- ◆× つまり、形式だけを切り取って、単調に提示しないこと。
- ◆②児童・生徒が気づく機会を奪わないこと。
- ◆× CDを聞かせてすぐに先生がその英語を口にしてリピート。
- ◆× 英語の音がそのまま、児童・生徒の耳に残らない。
- ◆× あるいは、すぐに先生が説明したり、種明かしをする。

#### 16. 文構造や音声への気づきを促すインプット2

- ◆③必要に応じて、「違い」の対比が明確になるようなペアを提示すること。
- ◆例えば、bigとlargeの使い方をハンバーガーと飲み物で示す。
- ◆④十分なインプットを与えること。
- ◆文構造や音声を一度示すだけで、すぐに「気づき」を求めず、何度も提示すること。
- ◆可能であれば、変化のある繰り返しで
- ◆絵本の読み聞かせで、先生が文字をただなぞることも大事。

#### 17. 挑戦する児童・生徒の背中を押して

- ◆児童・生徒は新たな英語表現に接すると、場面や状況から「この英語はこのように使うのかな」と仮説を立てて使う。
- ◆使い方が違えば修正して、また使ってみる。
- ◆「気づき」の多い児童・生徒ほど、どんどん挑戦する。
- ◆結果として「誤り」もたくさん生まれることもある。
- ◆前向き英語に取り組んでいるから生まれる「誤り」。
- ◆失敗を恐れず試行錯誤し、何度も挑戦できるような教室づくり。
- ◆挑戦を支え、「気づき」を促す温かいフィードバック。

#### 18. 小中高の授業を見て考えること

- ◆学んだ規則を、新たな場面で使えるか。  
→そのやりとりだけのセリフの暗記になっていないか。
- ◆英語にどれだけふれているか。  
→ALTの英語、音声教材は十分活用されているか。
- ◆聞く英語の許容範囲の広さは。  
→言って終わり。聞き取れる英語が狭くはないか。
- ◆出来なかつた子は、いつ出来るようになるのか。  
→どんどん置いてけぼりになる子はないか。

21

#### 19. 学習指導要領改訂で語彙が大幅に増える

小・中・高で4,000～5,000語		
小学校 600～700語	中学校 1,600～1,800語	高校で1,800～2,500語
		英コミュ I 400～600語      英コミュ II 700～950語      英コミュ III 700～950語
中・高で3,000語		
	中学校 1,200語程度	高校で1,800語
		コミュ I 400語      コミュ II 700語      コミュ III 700語

22

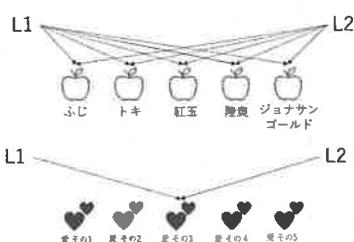
#### 20. 語彙指導

- ◆どのくらいの単語数が必要か。
- ◆72%の単語を知っている場合
- ◆97%の単語を知っている場合

23

#### 21. 語彙を学習する上で困難なこと

- ◆抽象語は学習が難しい。



具体的な語は  
概念と語彙のリンクが  
多く結びついている

抽象的な語は  
概念と語彙のリンクが  
少ない

## 22. 語彙指導

- ◆多読など語彙にふれることで単語は増える？
- ◆Grabe (2009) によると、読み進める中で新語に出会っても、習得されるのはそのうちの5~15%だけ。
- ◆一般に語彙を習得するためには、最低10~12回は文中で出会う必要がある。

25

## 23. 語彙指導

- ◆いくつ単語を知っているかは、語彙知識の「広さ」。
- ◆この他に、「深さ」と「流暢さ」という分類がある。
- ◆語彙知識の深さとは、「ある語について様々な観点の知識を持っている」ことを指します。
- ◆広さが語彙を量から見るとすれば、深さは質から見ることになります。
- ◆深さにはさまざまな要素（音声、綴り、語の構成要素、文法的働き、頻度）があります。
- ◆多義語の知識と、語彙のネットワークの知識。

26

## 24. 語彙指導

- ◆単語の意味がわからないとき、どうする？
- ◆無視しても理解にあまり影響のない語はthrowaway vocabulary (Nuttall, 2005)。
- ◆一般的には、単語の品詞で判断する。
- ◆形容詞や副詞がわからなかつたとしても、名詞・動詞が理解できれば大まかな文意はわかることが多い。
- ◆伝え合う目的が違っても、どれがthrowaway vocabulary になるかは変わってくる。
- ◆バスの乗り方についての情報を読んでいるときに、お金をどう扱うのかが知りたい場合には、その該当箇所以外の語彙は理解できなくても十分。

27

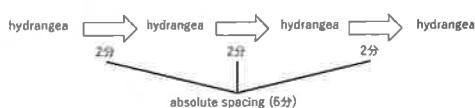
## 25. 集中学習と分散学習

- ◆ 学習のスケジュール 集中学習…間隔を空けずに繰り返す学習  
分散学習…間隔を置いて繰り返す学習

- ◆1日に30語を学ぶより、  
1日に10語のセットを3日かける方が、  
長期的な記憶保持を促進する (spacing effect)。

## 26. absolute spacing / relative spacing

absolute spacing…  
ある学習項目が複数回学習される場合の学習間隔の統計。  
例えば、ある単語が2分間隔で合計4回学習された際、  
3回の間隔があるためabsolute spacingは6分 (3回×2分間) となる。



## 27. absolute spacing / relative spacing

relative spacing…  
個々の学習機会がそれぞれどのように分布しているか

拡張	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea
均等	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea
縮小	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea	→	hydrangea

少しずつ復習間隔を大きくしていく、拡張分散学習が最も効果的であるという主張が多いが(拡張検索練習効果)、均等分散学習と統計的には有意な差はない(Kim & Webb, 2022)

⇒ 重要なのはabsolute spacing

### 28. 「読めたつもり」の謎

- ◆ 英語リーディングの科学
- ◆ 「読めたつもり」の謎を解く
- ◆ 「読めた」ということ
- ◆ 「理解した」ということ
- ◆ 「頭の中に残っている」ということ
- ◆ 「頭の中に整理されている」ということ
- ◆ 「状況モデルを描く」ということ

### 31. 「英文を理解する」ということ

- ◆ 英文を理解するということは、読解問題がたずねている情報を英文の中から探すことではない。
- ◆ 英文を理解するということは、書き手の意図をつかむことである。



### 32. 英文の場面や状況の理解

- ◆ The ranger saw the eagle in the sky.
- ◆ The ranger saw the eagle in its nest.
- ◆ Is the picture an object mentioned in the sentence?

(Stanfield and Zwaan, 2001; Zwaan et al., 2002)

### 33. 心の中に、英文内容の絵を描く

- ◆ 表層的記憶 / 表層的言語的表象 (surface memory)
- ◆ 命題的テキストベース (propositional textbase)
- ◆ 状況モデル (situation model)

### 35. 英文の場面や状況の理解

What is reading comprehension?

- ◆ 横書きを縦書きに、英文を日本語に訳すことではない。
- ◆ 英文が表している状景を心に描くことである。

### 36. 翻訳の限界

- ◆ 「彼はからだをこわした」
- ◆ 「彼は顔が広い」

#### 41. 情報は常に選択され統合される

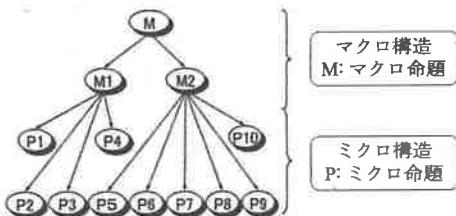
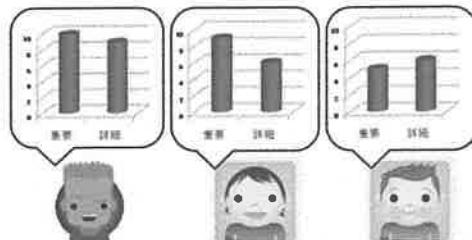


図2.1. マクロ構造の階層構造 (Kintsch, 1998, p. 67を改訂)。

#### 42. 理解する力と要約する力



英語母語話者 熟達度の高い学習者 熟達度の低い学習者

#### 43. Answering the Main Idea Question ( Ibid, p. xv)

Mark the *main idea*  
Mark the statement that is *too broad* → B  
Mark the statement that is *too narrow* → N

- a. By watching swallows, a person can predict rain or fair weather.
- b. When swallows fly high, there is less chance of rain.
- c. People can predict weather by watching birds in flight.

#### 44. Facts, Opinions, and Generalizations

◆ Let's review what you have learned so far. Look at the following chart for the definitions of facts, opinions, and generalizations.

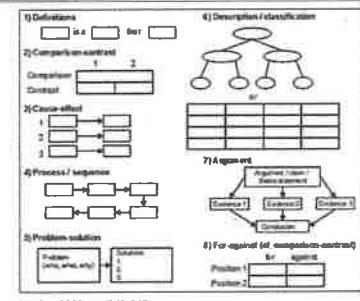
Facts	Statements that can be proved and agreed upon by all.
Opinion	Statements that someone believes are true (Others may believe differently)
Generalization	Statements expressing a general rule that allows for no exceptions. (These statements often contain words such as all, none, every, always, and never.)

(Ushiro & Shimizu, 2007, Reading Activator, McGraw-Hill)

#### 45. インフォメーション・トランスファー

- ◆卓球やテニスが上手な人とラリー
- ◆英文をただ順番に日本語に直す作業では、機械的に訳語を当てはめていくのでさほど苦もなくできる。
- ◆「じゃあ、どんな話なのか、簡単に話してみて」
- ◆「善者が言いたかったことを3点にまとめて言ってみて」
- ◆英文の情報をそのままではなく、少し形を変えてみるとことがインフォメーション・トランスファー(information transfer) (Anderson, 2000)

#### 46. テキスト構造を反映したグラフィックオーガナイザー



(Grabe, 2009, pp. 262-263)

#### 49. 本当のリーディング力をつけるために

- ◆初見で英文と格闘する機会を大切にしたい。
- ◆一文毎ではなく、セクション毎でもなく、ひとつのレッスン全体の英文を俯瞰する機会を作りたい。
- ◆レッスン全体の英文を冒頭でも、復習でも通し読みしたい。
- ◆分からぬ語句や表現に出会っても、せめてそのパラグラフを通して最後まで読み、本当のリーディング力を育てたい。

◆リテリング（再話）による、目的や場面、状況に応じた理解・表現

#### 1. リテル（再話）とは？

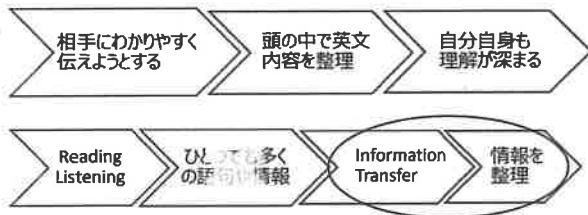
- ◆リテリング（再話）は「英文に目を通したあとに、原稿を見ないで、その内容を知らない人に伝える活動」。
- ◆現在多くの教室で行われているが、「自分のことば」で語るには至らず、暗唱にとどまっていることが多い。

#### リテリング（再話）

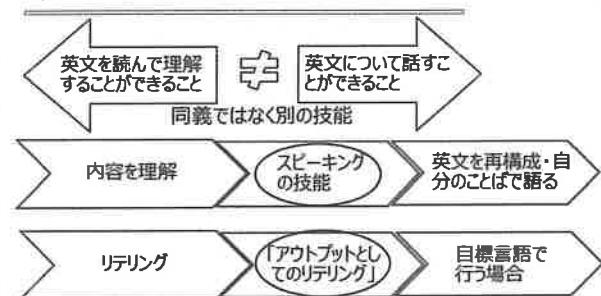


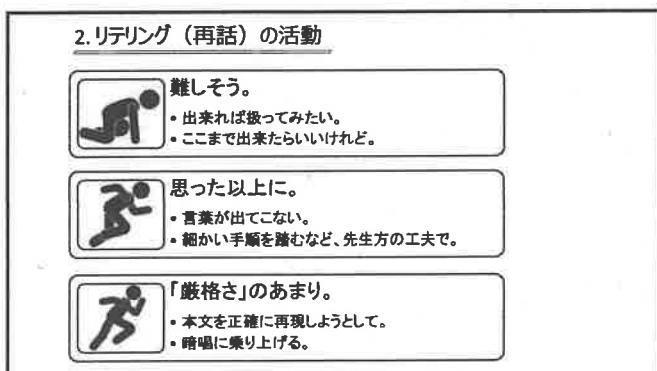
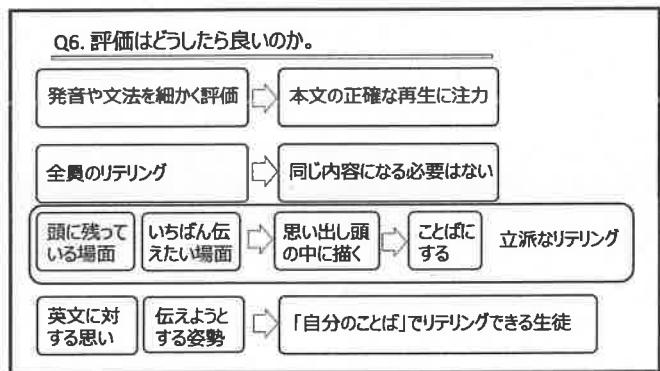
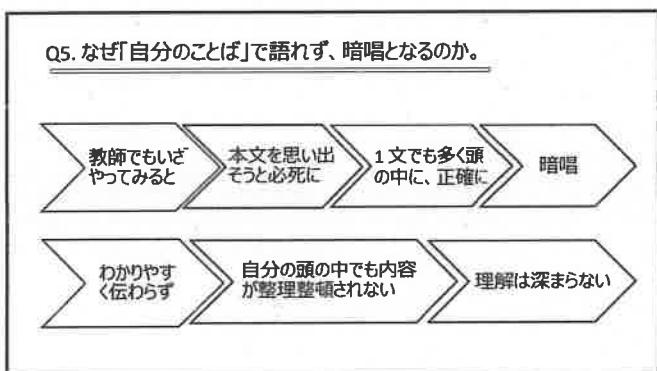
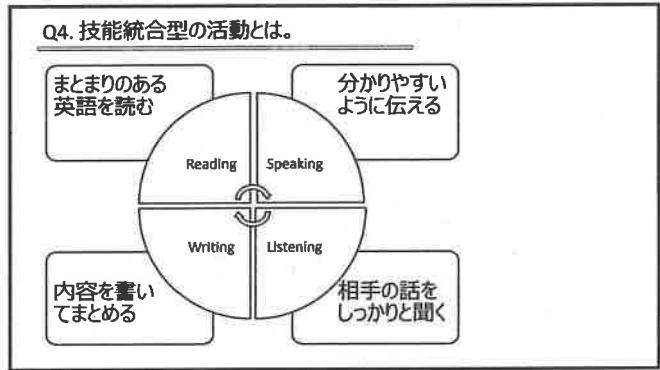
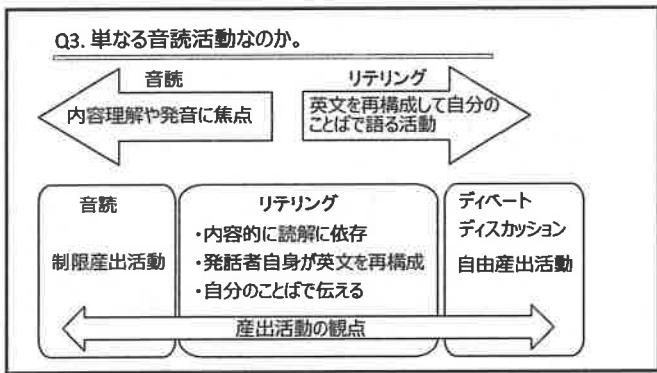
- Q1. 何故、理解が深まるのか。
- Q2. スピーキング活動とはみなされないのであるか。
- Q3. 単なる音読活動なのであるか。
- Q4. 技能統合型の活動とは。
- Q5. なぜ「自分のことば」で語れず、暗唱となるのか。
- Q6. 評価はどうしたら良いのか。

#### Q1. 何故、理解が深まるのか。



#### Q2. スピーキング活動とはみなされないのであるか。





#### 5. 育てたいのか、評価したいのか



- ◆評価できることしか、教えなくなる、学ばなくなる。
- ◆教えていないことを、評価している。

#### 6. 「自分のことば」で語るための提案

##### Information Transfer

一人称を三人称に。  
対話文をモノローグに。

絵を多く提示。  
全部使わなくてもいいよ。

中1の初めから、  
前段階を。

メモやキーワードを書き、  
教科書を閉じる。

7課をやっている時に、  
1, 2, 3課の復習で。

#### 7. 先ずは1人で、ペアで、少しずつ



- ◆いきなり黒板の前ではなく。
- ◆ペアで仲良く助け合って。
- ◆あなたは、キング牧師ではない。

## ESD の視点を取り入れた単元デザイン

発表者 前大えり (沖縄県豊見城市立伊良波中学校)  
指導助言者 佐脇武志 (立命館アジア太平洋大学)  
司会者 田港佳奈 (沖縄県南風原町立南風原中学校)

### 1 はじめに

近年、2030 年の SDGs (Sustainable Development Goals) 達成に向けて、社会全体で様々な取り組みが行われている。このような背景から学習指導要領においても、これから時代に求められる「持続可能な社会の創り手」の育成において、学校教育を通して ESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な開発のための教育」を推進することを求めている。ESD では現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、それらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことを目指している。

そこで本研究では、英語科の学習活動において、SDGs 達成を目指す ESD の能力・態度を育むための単元構成及び授業構成に焦点を当てることとした。ESD の視点を取り入れた単元デザインをもとに、生徒と身につけたい力 (Can-Do) や評価規準の共有、ESD で育みたい能力・態度に基づく学習の振り返りなどの取り組みについて発表する。

### 2 本校の現状と課題

昨年度まで所属していた南風原中学校は、沖縄本島南部のほぼ中央に位置し、県内で唯一海に面していない自治体にある。令和 3 年度に本県の ESD 研究指定校となり、総合的な学習の時間を軸に、各教科や生徒会活動において SDGs を意識したさまざまな活動を組織的に取り組んできた。生徒たちは SDGs に関する知識や関心は深まった一方で、様々な問題を「自分ごと」として捉え、よりよい社会の実現に向けた価値観や行動の変容を引き出すことが難しいと感じた。そこで年間を通して ESD を適切に指導計画に位置付け、学習指導要領で育成を目指す資質・能力をどのような学習内容で育んでいくか、そのための授業改善に取り組むことにした。

### 3 指導の実際

#### (1) ESD for SDGs の視点を取り入れた年間実践計画表の作成

2 学年の各教科で ESD や SDGs に取り組んだ授業実践を一覧表にした。英語科のみならず、各教科がどの時期に、どのような資質・能力を育成しているか一目でわかるようになり、教科等横断的な学習プログラムの実施につなげた。

#### (2) ESD の視点を取り入れた単元デザイン

ESD で目指す「持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観の育成」を英語科において実践するにあたり、これまでの単元計画の見直しを図った。国立教育政策研究所が例示している「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を

参考にし、①批判的に考える力、②未来像を予想して計画を立てる力、③多面的・総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する力、⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度、の7つの能力・態度を単元内容に応じて選択し、どのような学習過程を通して身に付けさせ、どのように評価するかを「単元デザインシート」にまとめた。

#### (2) パフォーマンステストの改善

単元の1時間目に、生徒と単元目標（Can-Do）、本単元で重視するESDの能力・態度、そしてその評価基準について共通確認を行う。可能な限り、パフォーマンステストにおいて、ESDで重視する能力・態度が生かされるような評価基準を設定し、日々の活動の中で生徒自身が意識して取り組めるようにした。

#### (3) 教科書の題材とSDGsへのつながり

教科書はSDGsへとつながる題材にあふれている。題材を学ぶ中で、生徒の様々な気づきを引き出し、社会課題につなげることが可能である。そこで年間計画の中でいくつかの題材を選び、その内容や問い合わせSDGsにつないでみた。教科のねらいを外さず、社会問題を生徒にとって身近な課題にリンクさせる発問や展開を工夫した。

#### (4) リフレクションシートによる学習の振り返り

学習の振り返りでは、単元ごとに設定したESDで重視する能力・態度を、生徒自身が学習活動の中でどのくらい意識して取り組めたかを自己評価させた。また、題材をSDGsとつなげた単元では、単元を貫く問い合わせ（Big Question）を設定し、学習を追うごとにその問い合わせし様々な立場や見方からアプローチを試みることで、授業前と単元の終末での生徒の考え方の変容をみとった。

### 5 研究の成果と考察

○ESDの視点を取り入れることで、教科の目標やねらいの達成のみならず、グローバルな人材育成の基盤となる資質や価値観の醸成といった学びの質を高めることができた。

○教科書の題材をESD for SDGsの視点で学習することで、生徒は授業で学んだことや身につけた態度を実生活において行動に移す意欲を高めることができた。

今年度は4月に赴任した伊良波中学校2学年（4クラス）を対象に、5月と9月に行うアンケートにおいて、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を生徒が学習の中でどれだけ意識して取り組めているかを調査する。アンケート結果については、当日の発表で示す。

### 6 今後の課題

○生徒が学んだことや身に付けた力を生かして主体的に行動する（発信する）ために、地域や企業との連携を行い、海外とのネットワークも構築していきたい。

○ESDで身に付けさせたい能力・態度への評価については、長期的な視点に立って生徒の行動変容や成長を見逃さず、言語化して評価する必要がある。

○生徒たちの更なる変容を目指すためには、学びを横断的に関連づける必要がある。そのために、英語科におけるESD推進の取り組みを学校全体で共有していきたい。

県教育委員会教育長 様  
市町村教育委員会教育長 様  
小学校・中学校・中等教育学校 様  
特別支援学校・高等学校の校長 様  
英語担当指導主事 様  
外国語活動・英語科担当者 様

鹿児島県高等学校教育研究会英語部会  
会長 荒田 修  
(鹿児島県立川内高等学校長)  
鹿児島県中学校教育研究会英語部会  
会長 村上 勝美  
(鹿児島市立甲東中学校長)  
鹿児島県小学校外国語活動・外国語科研究会  
会長 有馬 純子  
(日置市立妙円寺小学校長)

## 第 72 回九州地区英語教育研究大会（鹿児島大会）開催案内（一次案内）

### 1 開催関係団体

主 催 九州地区英語教育研究団体連合会（九英連）  
鹿児島県高等学校教育研究会英語部会，鹿児島県中学校教育研究会英語部会  
鹿児島県小学校外国語活動・外国語科研究会  
後 援（予定）鹿児島県教育委員会，鹿児島市教育委員会，鹿屋市教育委員会  
鹿児島県私立中学校高等学校協会  
大会運営 九英連鹿児島大会実行委員会

### 2 大会テーマ

「新時代の日本人～コミュニケーションでつながる英語教育～」

### 3 期日

令和 6 年（2024 年）10 月 18 日（金）～19 日（土）

### 4 会場

1 日目：令和 6 年（2024 年）10 月 18 日（金）（開会行事／公開授業／講演）

【小・中学校の部】 リナシティかのや

（鹿児島県鹿屋市大手町 1-1）

【高等学校の部】 かごしま県民交流センター 大ホール

（鹿児島県鹿児島市山下町 14）

2 日目：令和 6 年（2024 年）10 月 19 日（土）（分科会）

【小・中学校の部】 鹿屋市立鹿屋女子高等学校

（鹿児島県鹿屋市西原 1-24-35）

【高等学校の部】 鹿児島県立鹿児島中央高等学校

（鹿児島県鹿児島市加治屋町 10-1）

※ 本大会は、【小・中学校の部】は鹿屋市、【高等学校の部】は鹿児島市と分散開催で実施します。

## 5 日 程

1日目：令和6年（2024年）10月18日（金）

	【小・中学校の部】	【高等学校の部】
基調講演	亀谷みゆき (朝日大学経営学部経営学科教授)	向後秀明 (敬愛大学 英語教育開発センター長・国際学部国際学科教授)
授業者発表	<b>小学校授業者発表：</b> 東美里 (鹿屋市立鹿屋小学校教諭) <b>小学校指導助言者：</b> 川上典子 (鹿児島純心大学人間教育学部教授) <b>中学校授業者発表：</b> 池田大恭 (鹿屋市立鹿屋中学校教諭) <b>中学校指導助言者：</b> 石原知英 (鹿児島大学教育学部准教授)	<b>高等学校授業発表：</b> 脇久美子 (鹿児島県立甲南高等学校教諭) <b>高等学校指導助言者：</b> 国重徹 (鹿屋体育大学教授)

2日目：令和6年（2024年）10月19日（土）午前中のみ

	【小・中学校の部】	【高等学校の部】
分科会	九州各県の中学校代表の8つの分科会を、前半4分科会、後半4分科会実施。 本県小学校代表の2つの分科会を、前半1分科会、後半1分科会実施。	九州各県の高等学校代表の8つの分科会を、前半4分科会、後半4分科会実施。

## 6 会 費

一般参加者 4,000 円 小学校関係者 2,000 円 学生 1,000 円

## 7 参加申し込みおよび会費納入方法

参加申し込み及び会費納入方法は第72回九英連鹿児島大会ホームページ（令和6年（2024年）7月末開設予定）に掲載予定

## 8 問い合わせ先

大会全般及び小・中学校の部に関すること	高等学校の部に関すること
大会実行委員長 牧俊輔 〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目20番35号 鹿児島大学教育学部附属中学校 Tel 099(285)7932 E-mail: s.maki@edu.kagoshima-u.ac.jp	大会副実行委員長 生駒真也 〒892-0846 鹿児島県鹿児島市加治屋町10-1 鹿児島県立鹿児島中央高等学校 Tel 099(226)1574 E-mail: ikoma-shinya@edu.pref.kagoshima.jp

沖中英研 第20号  
令和5年10月1日

学校長 殿  
英語科担当 殿

沖縄県中学校英語教育研究会  
会長 森山涼子  
(公印省略)

## 令和6年度用 沖縄県版『New English Notebook』採用について(依頼)

時下、貴校に於かれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

「New English Notebook」は、本研究会が会活動の一環として編集・発刊し、県下の各中学校でご活用いただいているものです。これもひとえに、諸先生方の本会に対するご理解とご協力の賜と深く感謝申し上げます。

「New English Notebook」は、新学習指導要領に対応した、編集・執筆を行っておりますので、学校現場においても充分ご活用していただけることと思います。また、実際にご使用されている先生方のご意見を参考にし、授業や自主学習が楽しくスムーズにできるよう、形式、内容、スペース等に十分配慮しております。

これまで、「New English Notebook」の印税により、「九州・全国英語研究大会派遣費」「各地区英語研究会への補助費」「英語スキットコンテスト」「英語スピーチコンテスト」等の事業が運営されており、直接間接的に本県英語教育の向上に役立っております。

しかしながら、近年「New English Notebook」の採用校の減少により、本会の予算が減少し、運営に支障が出てきております。「New English Notebook」のご採用についてご検討をお願いいたします。

〈本件に関する問い合わせ〉

沖縄県中学校英語教育研究会

事務局長 大城 志乃（那覇市立寄宮中学校 教諭）

住 所 〒902-0077 那覇市長田1丁目13番65号

電話番号 098-917-3408

FAX番号 098-917-3428

E-mail ooshshin@open.ed.jp

## 1. 令和6年度用「New English Notebook」の主な改訂のポイント

- ①各地区の新しい教科書の流れに合わせた内容で構成しています。
- ②各セクションの左ページを、授業で自由に使えるようフリースペースにしています。
- ③新出単語と意味を予めのせ、すぐに活用につなげられるようにしています。
- ④新出単語・熟語は、教科書の並びに合わせて提示しています。
- ⑤各セクションの問題は、実際の場面を想定し自分の言葉で表現する内容の問題としています。
- ⑥各セクションの問題は、基礎・基本の定着を図るための基本文と関連付けた問題としています。
- ⑦各セクションの問題は、1・2文は穴埋め式、または選択式にし、最後の1文は自由に記述できる問題とし、段階的に難易度を変えています。
- ⑧対話文の問題の解答は、吹き出しの中に直接書き込めるようにしています。
- ⑨まとめの問題は、単元のまとめとして、「思考力・判断力・表現力」等を問う、教科書内容の問題や高校入試、全国学力学習状況調査、沖縄県学力到達度調査の類似問題を掲載しています。
- ⑩まとめの問題においての出題の仕方は、基礎基本の定着を図るための、選択・穴埋め問題→長文読解問題→表現問題の流れで出題しています。（ただし、長文読解の分量によっては、表現問題→長文読解問題としています。）

## 2. 編集・発行・発売

- (1)編 集 沖縄県中学校英語教育研究会
- (2)発行所 合資会社 沖縄時事出版
- (3)発売元 株式会社 沖縄学販

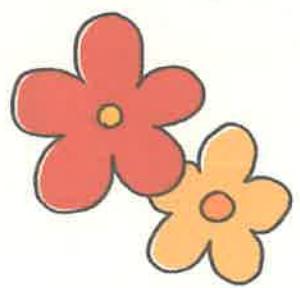
## 3. 装丁及び価格

種 類	学 年	規 格	形 態	紙 質	定 価	製 本
New English Notebook	1年	B 5	年間単冊	上質紙	670円	無線綴じ
	2年	B 5	年間単冊	上質紙	670円	無線綴じ
	3年	B 5	年間単冊	上質紙	670円	無線綴じ

※「New English Notebook」は、令和6年度の各地区教科書に準拠して編集されています。

## 令和5年度 事業計画（案）

月	日	曜	事 業	備 考
5	12	金	九英連 第1回理事会(大分県)	沖中英研会長・事務局
5	19	金	第1回沖中英研役員会 (新役員体制/令和5年度事業計画/地区役員連絡会/交流)	沖中英研役員
5	26	金	沖中英研役員および地区役員連絡会 (新役員体制/令和5年度事業計画/他)	沖中英研役員 各地区役員
6	9	金	第3回沖中英研役員会(スキットコンテスト)	沖中英研役員
6	30	金	英語スキットコンテスト県大会申し込み締め切り	弁論部宛(糸満中)
7	15	土	第3回英語スキットコンテスト沖縄県大会 場所:沖縄県男女共同参画センター「ているる」	運営:沖中英研役員
9	1	金	第3回沖中英研役員会(英語弁論大会/英語研究大会/「交流」/他)	沖中英研役員
9	15	金	高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会沖縄県大会 申し込み締め切り	弁論部宛(宜野湾中)
9	30	土	高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会 県予選大会 場所:沖縄県男女共同参画センター「ているる」	運営:沖中英研役員
10	6	金	弁論大会全国大会への県代表申し込みの発送(※ 代表校各自にて)必着	読売新聞社へ
10	13	金	第4回沖中英研役員会(英語研究大会)	沖中英研役員
10	11 12	水 木	高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会 決勝予選大会(ビデオ・オンライン配信)	読売新聞東京本社
11	17	金	高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会 決勝大会(有楽町よみうりホール)	読売新聞東京本社
10	20 21	金 土	九英連大分大会分科会 発表:前大えり 教諭(南風原中学校:島尻地区) 司会:田港佳奈 教諭(南風原中学校:島尻地区)	沖中英研 沖中英研会員
12	1	金	令和5年度 沖縄県中学校英語教育研究大会 公開授業者:兼島こずえ 教諭(那覇地区) 実践発表者:前大えり 教諭(島尻地区)	沖中英研役員 沖縄県英語教諭
12	9 10	土 日	第28回沖縄県中学校総合文化祭(係分担あり) (スキット及びスピーチ弁論大会最優秀受賞者出場予定)	沖中英研役員
1	12	金	第5回沖中英研役員会('交流38号'進捗状況・次年度計画)	沖中英研役員
2	22	木	沖中英研機関紙『交流』第38号 原稿提出締め切り完成→HPに掲載	広報部(石田中)
3	15	金	第6回沖中英研役員会(次年度計画の提案)	沖中英研役員



沖縄県中学校英語教育研究会